

## 平成18年度国際教育推進プラン実施計画

### 1 学校等概要（平成17年5月1日現在）

(1) 都道府県名： 大阪府

(2) 市区町村名： 豊中市

小学校： 41校、中学校： 18校

### 2 NPO法人等概要： 財団法人とよなか国際交流協会

(1) 設置年月（内閣府又は地方自治体認証年月）

設置： 平成5年10月29日（大阪府認証）

(2) 構成等

代表者： 初瀬龍平

会員数： 個人272人 団体7 法人1

所在地： 豊中市北桜塚3丁目1番28号

(3) 設立趣旨・目的

基本理念： 市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域から  
すすめる世界とつながる多文化共生社会をつくる。

(4) 沿革（平成16年度主な活動実績）

#### ・国際交流活動等の市民活動ネットワークとの共催事業

「国際交流市民ネットまつり」「アジアのお正月」「公演：グローバル化と教育」「学習会  
：在日外国人の抱える問題と解決方法など」年4回開催 参加人数 1075人

#### ・留学生・ホストファミリー事業

交流留学生 118人 ホスト・ファミリーボランティア家族 154家族

#### ・相談サービス事業 受付人数276人 相談派遣件数 222件

#### ・出産や育児をする外国人のための交流事業 年6回実施 参加人数 114人

#### ・多文化子育て支援ボランティア養成講座 参加人数 114人

#### ・日本語活動事業 とよなかにほんご ボランティア80人 学習者172人 年間135回実施

#### ・外国人の子どもの日本語・教科学習支援事業 年77回実施 ボランティア10人 子ども5人

#### ・子どものためのハングル講座 年10回実施 子ども（小学生）13人

#### ・多文化保育事業 年90回実施 保育ボランティア14人 外国人の子ども 26人

#### ・文化庁委嘱 親子参加型日本語教室 2教室 年79回実施 ボランティア30人 参加外国人親子 30組

#### ・子どもの居場所づくり新プラン～地域子ども教室推進事業～

平和と共存のための地球おまつり一周クラブ 年42回実施 子ども17人

#### ・ESD（持続可能な開発のための教育）10年・ESDとよなか事業

ワークショップ、学習会、小学校区での子どもの写真ワークショップ、写真展、作品展など

年間12回開催

参加人数 690人

・連続国際理解セミナー事業

「アジア・ジェンダー」「パレスチナ・難民」「フィールドワーク 在日コリアン・沖縄」  
「E S D」 年4回実施 参加人数 163人

・メディア・リテラシー市民ゼミナール事業

ファシリテーターのための研修セミナー 年1回実施 参加人数 50人

・調査・研究事業「地域における多文化共生・国際理解教育の実態調査」

「地域における国際理解教育2004年度実践報告書」作成

・国際理解教育教材冊子作成「母語学習と人材育成」

### 3 課題やねらい

本市は、大阪国際空港、東海道新幹線等、交通運輸機関の利用に至便の地であり、大阪府の北部中核として大阪市に隣接する住宅都市である。市域全体が住宅化されており、千里地区、北部地区をはじめ全市的に、海外を含む転入者が多く、市民の教育に対する意識は非常に高い。また、大阪大学をはじめとする高等教育機関が所在する。

市内には60数カ国約4800人の外国人市民が在住しており、市民の国際化に対する意識が高い。①市民がつくる国際交流活動、②外国人市民と共生するまちづくり、③ともにつくる世界の未来を活動の三本柱とする「とよなか国際交流協会」をはじめ様々な市民団体が、「とよなか国際交流センター」を拠点として活動しており、市内各所で国際交流に関わる行事が活発に展開されている。

本市は帰国児童生徒の受入れの拠点として、40年にわたる研究を積み重ねており、現在も市内半数の小中学校に約160名の帰国児童生徒が在籍している。昭和42年から「帰国子女教育研究協力校」の指定を受けた上野小学校と、昭和51年から同指定を受けた第十一中学校（現在は、両校とも「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」指定のセンター校）を中心として、帰国児童生徒の適応教育と彼らを軸に据えた国際理解教育の研究を推進してきている。そのため文部科学省のホームページを見たり、大阪府教育委員会の紹介で帰国後本市を選んで居住する人が多い。

また、市内には歴史的経緯を有する、様々な立場をもった韓国・朝鮮人児童生徒が多数在籍しており、同じルーツを持つ仲間どうしが交流したり、一緒に民族の文化を学ぶ場となる「ハギハッキョ」「韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい」をはじめとする取組みを長年にわたって続けている。

校区に大阪大学国際交流会館を有する桜井谷小学校には、従来から各国の研究者の子どもが多く在籍しているが、今日では、国際結婚や就労、留学など様々な理由で渡日してきた外国人児童生徒も増加傾向を示しており、市内多くの小中学校に在籍している。彼らの就学支援や渡日当初の適応支援にあたるため、渡日児童生徒相談室を設置し、通訳者の派遣や日本語の初期指導、母語による教育相談等の施策を進めている。

上述したように、市内学校・地域で様々な取組みを推進しているが、これまでは、各取組みは課題別に分断されており、有機的な連絡・連携を持って相乗効果を上げるまでには至ってい

なかった。また、近年の経済状況や家庭環境の変化等により、長期の海外生活の後日本語習得が十分でない状態で編入したり、国際結婚により複数の文化を持つ等、帰国・外国人児童生徒が多様化する傾向があり、これまで「帰国児童生徒」、「外国人児童生徒」という概念で別々に進めてきた施策の再構築も喫緊の課題になっている。

上記課題を踏まえ、地域資源を明らかにして、これまでの取組みを整理し、それぞれの取組みの有機的な連携を図った上で、国際教育を通して、学校・教育委員会・地域諸団体が協働して次代を担う子どもたちの豊かな成長の土壌となるような持続可能な地域づくりを進めることをめざしている。

#### 4 活動計画

##### (1) 中核校 (平成17年5月1日現在)

学 校 名	所 在 地	児 童 生 徒 数	教 員 数
上野小学校	豊中市上野東2-8-8	927	40
第十一中学校	豊中市西緑丘2-11-1	895	44

##### (2) 協力校 (平成17年5月1日現在)

学 校 名	所 在 地	児 童 生 徒 数	教 員 数
少路小学校	豊中市西緑丘2-10-1	963	44

##### (3) 活動テーマ (メインテーマの番号： ① ) (サブテーマの番号： )

「帰国子女教育研究協力校」及び「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」としての長期にわたる研究・実践を踏まえ、地域関係団体や保護者との連携を深めながら、以下のテーマをもとに研究を進める。

- I 「国際理解教育」から未来の地域づくりの担い手育成の教育へ
- II 異文化を背景に持つ子どもたちが尊重される地域づくり
- III 豊中における「国際」を総合的につなげるシステムづくり

##### (4) 具体的内容

###### I 「国際理解教育」から未来の地域づくりの担い手育成の教育へ

- ①国際教育への理解を深め、推進するため、スキルアップをめざした教員研修を実施する。
  - ・外国語及び異文化理解研修
  - ・日本語教育法・教材研修
- ②国際化時代に対応し、自ら考え行動でききる人材育成のため、総合的な学習の時間へESD(持続可能な開発のための教育)の導入を図る。
  - ・「ESDとよなか」とのカリキュラムづくり
- ③地域のリソースを生かして学校や地域において国際教育を推進する。
  - ・在住外国人
  - ・帰国児童・生徒及び保護者
  - ・高等教育機関など

④国際教育情報バンクの整備を行う。

II 異文化を背景に持つ子どもたちが尊重される地域づくり

①不就学を乗り越え相互理解できる取組みをつなげる。

- ・不就学実態調査

②海外での経験を通してはぐくまれた特性を保持・伸長するとともに、学校生活の安定を図るため、帰国・渡日児童生徒へのサポートを行う。

- ・多言語サポーター
- ・母語カウンセラー
- ・補充学習サポーター
- ・子どもの学習（日本語）支援
- ・子どもの母語学習支援

③帰国・外国人児童生徒への日本語指導の充実を図る。

- ・J S Lカリキュラムの開発・普及

④帰国・外国人児童生徒支援実務マニュアルを作成する。

III 豊中における「国際」を総合的につなげるシステムづくり

①学校教育及び地域教育で行われている国際教育関連の取組みの相互理解を深め、連携を図るため、地域リソースの整理を行う。

②学校、保護者、関係団体・NPO、高等教育機関等の連携を図り、国際教育を推進するため、地域の国際教育ネットワークを構築する。

- ・国際教育推進協議会の設置
- ・就学前から小中高連携のシステムづくり
- ・3年間の評価軸の作成

## 平成18年度国際教育推進プラン中間報告

## 1 経過報告

- これまでの「帰国児童生徒教育」「在日外国人教育」「とよなか国際交流協会」でのそれぞれの取組みをさらに推し進めるとともに、相互の連携を図るため、豊中市国際教育推進プラン推進協議会の立ち上げにむけて具体的に動き出した。
- 「豊中市国際教育推進協議会」の委員構成に関して、国際教育推進プランが円滑に事業展開していくようかなりの時間を割いて検討するとともに、実際の事業展開にあたって、推進協議会の実務機関として「国際教育推進部会」を設けることになった。また、この推進部会には本市中核校の帰国児童生徒保護者会の代表を構成員に迎え、また連携先である大阪教育大学附属高等学校池田校舎からはユネスコ協同学校プロジェクトの取組みで実際に高校生を指導しておられる高等学校教諭にも入ってもらい、より広範に活動を進めることになった。
- 豊中市国際教育推進協議会の開催(平成18年11月22日)
- 豊中市国際教育推進部会の開催(平成18年12月22日)

## 2 豊中市国際教育推進協議会実施概要

- 構成（※別紙1参照）
- 協議会進行内容
  - ・ 提言「国際教育推進プランの目指すもの」  
大阪教育大学附属高等学校池田校舎副校長 奥村 芳和 氏より  
(※「国際理解教育」から「国際教育」へ、「初等中等教育における国際教育推進検討会報告」から、「ユネスコ協同学校としての国際理解教育について」)
  - ・ 経過報告（事務局より）
  - ・ これまでの取組みの概要（※別紙参考資料参照）  
在日外国人教育、とよなか国際交流協会、帰国児童生徒教育  
豊中市小中学校教育研究会(多文化共生、国際理解教育)、ESD とよなか
  - ・ 実務機関(国際教育推進部会)の設置について（※別紙2参照）
    - 事務局提案の後、設置が承認され、構成メンバーについて論議された。
    - 推進協議会と推進部会との連携については、本来は推進協議会で方向性を共通認識しそれを受けて推進部会で実際の展開を具体化するための方策を検討していく。
  - ・ 今後の取組み計画について(意見交換)
    - これまでの各取組みを継承させつつ、今までそれぞれの取組みがともすれば、それぞれの取組みだけで完結していたところに、横のつながりをつくり、お互いがそれぞれの取組み内容を共通理解し、さらに連携して「国際理解教育」から「国際教育」へ移行していくためのネットワーク化の中心として協議会を運営する。
    - 3カ年の国際教育推進プランを見通したとき、地域のネットワーク化をすすめていくために段階をふんで取組みをすすめていくことが重要である。そのために以下のような大きくわけて3つの柱3つを検討した。
      - ①「国際教育」推進のための研修会  
※ワークショップ形式も含めて、教職員、保護者等の意識を変えていくための様々なテーマ、対象、形式の研修会を企画する
      - ②「理解」から「自ら行動」することができる人の育成のために  
※総合的な学習の時間へESDの取組みを導入する。そのためのモデル授業とカリキュラム開発をおこなう
      - ③「国際教育」をとりまくさまざまな立場の人たちが出会う場のために  
ワークショップ、交流会、帰国保護者会の行事などを盛り込んだ「国際教育フェスティバル」のようなイメージのものを開催。単発の出会場の場ではなく、互いがつながるための拠点として機能するよう

なもの。

### 3 国際教育推進部会実施概要

○構成等（※別紙2参照）

○ 推進部会進行内容

- ・ 推進協議会の報告と経過説明（事務局より）
- ・ 連携先(大阪教育大学附属高等学校池田校舎、とよなか国際交流協会、ESD とよなか)の取組みから、国際教育推進プランの取組みへ
- ・ 中核校の取組みから、国際教育推進プランの取組みへ
- ・ 保護者会の取組みから、国際教育推進プランの取組みへ
- ☆ それぞれの取組みを「国際教育推進プラン」への取組みへクロスオーバーさせながらシフトしていくことについて論議を行った。

・ 推進部会を受けた以後の取組み

- ワールドミュージアムの取組み（※中核校保護者会による国際理解教育に関わる展示発表）実施
- 豊中市小中学校教育研究会（※帰国児童生徒教育・国際理解教育部会）  
※研修会の実施 テーマ：「国際理解教育」から「国際教育」へ
- とよなか国際交流協会主催での「子どもたちのための多様性を尊重するアートワークショップ」を実施
- とよなか国際交流協会主催での ESD の取組み発信の中で、連携先である附属高校の生徒による発表会を実施

・ 今後の取組みについて(意見交換)

- 協議会で論議された、3カ年の国際教育推進プランを見据えた3つの柱をひとつの方向として、今後、それぞれの現場の実情にあわせて、現在の取組みをあらたに「国際教育」の視点から見直していく。
- 3つの柱の中でいえば、まず、今後「国際教育」に関わる者の意識を変えていくことが最重要課題である。そのために、研修会を検討し、企画していくことが必要である。

### 4 今後の展開（今年度最終及び来年度）

○ 推進協議会及び推進部会合同での研修会の実施

- ・ 連携先である大阪教育大学附属高等学校池田校舎の協力を得て、高校生による ESD の取組みをワークショップ形式で展開してもらう。
- ・ これを受けて、来年度、総合的な学習の時間への ESD を導入するためのカリキュラムづくりの足がかりとして論議する。

○ 来年度は、早々に推進協議会、推進部会を開催し、今年度共通理解を得たことをもとに、具体的に、以下のような取組みを展開するための準備、調整をおこなう。

※中核校、保護者会、市教育研究会等で、「国際教育」をテーマにさまざまな切り口、対象で研修会を実施する。

※連携先である「ESD とよなか」「附属高校」と協同して、総合的な学習の時間への ESD 導入のモデルカリキュラムを研究し、それをもとに研修会をおこない、実施校を募集し、そこでカリキュラムの検証をおこなう。

※その検証をもとに、モデルカリキュラムからさらにバリエーションを研究していく。

※中核校、連携先(とよなか国際交流協会、大阪教育大学附属高等学校)等が集まり、「出会いの場」につながるきっかけとなる「国際教育フェスティバル」を企画、実施し、「国際教育」発信の第一歩を踏み出す。

※これら各取組みがさまざまな立場から共有し地域のネットワーク化へつないでいくために、推進部会を中心としてこれらの取組み内容を一定整理していく。

## 別紙 1

## 平成18年度（2006年度）豊中市国際教育推進協議会委員名簿

委員名	職名	機関団体	所属
	豊中市教育委員会学校教育室長	教育委員会代表	学校教育室
	豊中市教育委員会学校教育室学校指導課長		学校指導課
	豊中市教育委員会人権教育企画課長		人権教育企画課
	とよなか国際交流協会事業課長	とよなか国際交流協会代表	とよなか国際交流協会
	アジェンダ21事務局長	E S Dとよなか代表	E S Dとよなか
	大阪教育大学附属高等学校池田校舎副校長	連携先代表	大阪教育大学附属高等学校池田校舎
	豊中市立しんでん幼稚園長	豊中市立校園長代表	豊中市立しんでん幼稚園
	豊中市立上野小学校長		豊中市立上野小学校
	豊中市立第十一中学校長		豊中市立第十一中学校
	豊中市立桜井谷東小学校教諭	豊中市在日外国人教育推進協議会代表	豊中市立桜井谷東小学校
	豊中市立克明小学校教諭	豊中市立小・中学校教育研究会(多文化共生と在日外国人教育)代表	豊中市立克明小学校
	豊中市立第九中学校教諭	豊中市立小・中学校教育研究会(帰国児童生徒教育・国際理解教育)代表	豊中市立第九中学校

事務局

豊中市教育委員会学校指導課

豊中市教育委員会人権教育企画課

## 別紙2

## 平成18年度（2006年度）豊中市国際教育推進部会について

(1) 機能：推進協議会で意見交換された内容をうけて、それを具体化するために様々な実行プロジェクトを企画・実行していく

(2) 構成

名 前	所 属	備 考
	豊中市立学校教職員（豊中市在日外国人教育推進協議会）	
	豊中市立学校教職員（豊中市立小・中学校教育研究会） ※多文化共生と在日朝鮮人教育	
	豊中市立学校教職員（豊中市立小・中学校教育研究会） ※帰国児童生徒教育・国際理解教育	
	豊中市立学校教職員（中核校教諭※小学校）※帰国児童担当	上野小学校
	豊中市立学校教職員（中核校教諭※中学校）※帰国生徒担当	第十一中学校
	豊中市立学校教職員（協力校教諭※小学校）※帰国児童担当	少路小学校
	大阪教育大学附属高等学校池田学舎	
	とよなか国際交流協会（国際教育推進プラン担当）	
	とよなか国際交流協会（国際教育推進協議会委員）	
	E S Dとよなか	
	上野小学校保護者会代表	上野小学校
	第十一中学校保護者会代表	第十一中学校
	豊中市教育委員会人権教育企画課	
	豊中市教育委員会学校教育室学校指導課	
	豊中市教育委員会学校教育室学校指導課	

(3) プロジェクト・チーム

- ※ 取組み課題ごとにプロジェクト・チームをつくり、プロジェクトをすすめていく。
- ※ チームごとに推進部会以外の構成メンバーを随時、増やすこともできる。

(4) 部会の開催

- ※ 推進部会には部会長1名、副部会長1名をおく。
- ※ 推進部会は、推進協議会とは別に課題ごと、プロジェクトごとに開催することができる。



別紙参考資料 平成17年度(2005年度)国際教育に関するこれまでの取組み概略一覧

在日外国人教育	とよなか国際交流協会	帰国児童・生徒	文部科学省指定「国際教育推進プラン」	これまでの取組みから(案)
<p><b>豊中ハギハッキョ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生のためのハギハッキョ</li> <li>ハギハッキョキャンプ</li> </ul> <p>韓国・朝鮮のことばと遊びのつどい</p> <p><b>中学生のつどい</b></p> <p><b>豊能地区多言語による進路相談会</b></p> <p><b>豊能地区多言語による学校生活相談会</b></p> <p><b>渡日児童生徒の学校への受け入れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れ初期対応</li> <li>通訳派遣</li> <li>日本語指導</li> </ul>	<p><b>地球一周クラブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生のつどいを卒業した子どもたちに対して</li> <li>文部科学省委嘱事業</li> </ul> <p><b>帰国渡日児童生徒サポート事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多言語による進路相談会</li> <li>多言語による生活相談会</li> </ul> <p><b>新渡日の子どもたちへの取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもトワイライト</li> <li>子ども母語</li> <li>子ども事業</li> </ul> <p><b>国際理解教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊中市の小学校(11校)、中学校(1校)、府立高校(4校)への外国人講師派遣</li> </ul> <p><b>国際交流市民ネットまつり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エンジョイ多文化 知りあおう楽しもう</li> <li></li> </ul>	<p><b>豊中市帰国保護者会</b>(6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※保護者の交流会</li> </ul> <p><b>集まれ帰国の子どもたち</b>(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※保護者・児童</li> </ul> <p><b>豊中市帰国保護者会</b>(1月)</p> <p>☆上記は上野小学校保護者会が中心に運営</p> <p><b>豊中市帰国児童生徒教育研修会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「異文化を持つ子どもたち～帰国児童・生徒の相談から見えてくるもの」</li> <li>講師—帰国教育相談カウンセラー</li> </ul> <p><b>帰国教室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生—上野小学校にて</li> <li>中学生—とよなか国際交流センターにて</li> <li>交流会(1学期末に実施)※国際交流協会</li> </ul> <p><b>帰国教育相談</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第三金曜日(※上野小学校にて)</li> </ul> <p><b>補充学習サポーターによる支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上野小学校(※授業、放課後)</li> </ul> <p><b>帰国児童・生徒の学校への受け入れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>編入初期対応</li> <li>帰国教室案内</li> <li>教育相談案内</li> </ul> <p><b>国際理解教育(総合的な学習の時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上野小学校(※上野ワールドミュージアム)</li> <li>第十一中学校</li> </ul>	<p><b>実施主体</b>●豊中市</p> <p><b>中核校</b> ●上野小学校 ●第十一中学校</p> <p><b>協力校</b> ●少路小学校</p> <p><b>連携先</b> ●大阪教育大学附属高等学校池田校舎 ●財団法人とよなか国際交流協会</p> <p>☆大教大附属高校池田学舎の取組み ・ユネスコ協同学校プロジェクトの取組み</p> <p><b>国際理解教育推進のためのスキルアップを目指した教員研修の実施</b></p> <p><b>帰国・外国人児童生徒へのカウンセリングや日本語指導等の支援の充実</b></p> <p><b>学校、保護者等とが連携し、地域の国際教育ネットワークを構築する</b></p> <p><b>総合的な学習の時間へESD(持続可能な開発のための教育)を導入</b></p>	<p><b>国際教育推進のための研修会</b> (例示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ テーマ「国際教育推進プラン」</li> <li>☆ テーマ「ESDの取組み」等々</li> <li>☆ 対象:推進協議会委員、実務担当者、中核校教職員等?</li> <li>☆ 対象:市内全教職員によびかける?</li> </ul> <p><b>帰国外国人保護者会</b></p> <p><b>総合的な学習の時間へのESDの取組みの導入</b> (例示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 連携先の大教大附属高校池田学舎の取組みを中核校の総合的な学習の時間の中で展開してもらう(附属の先生の指導のもと附属の高校生が展開)?</li> </ul> <p><b>国際教育フェスティバルの開催</b> (例示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ とよなかでさまざまな課題をもつ人たちが会える場をつくる</li> <li>☆ 「国際交流市民ネットまつり」のようなイメージ?</li> <li>☆ その中で帰国保護者会の「もちつき」などをひとつのブースでおこなうのもひとつの方法?</li> </ul>
	<p>※ 市民ネットまつりは今年度実施</p>			